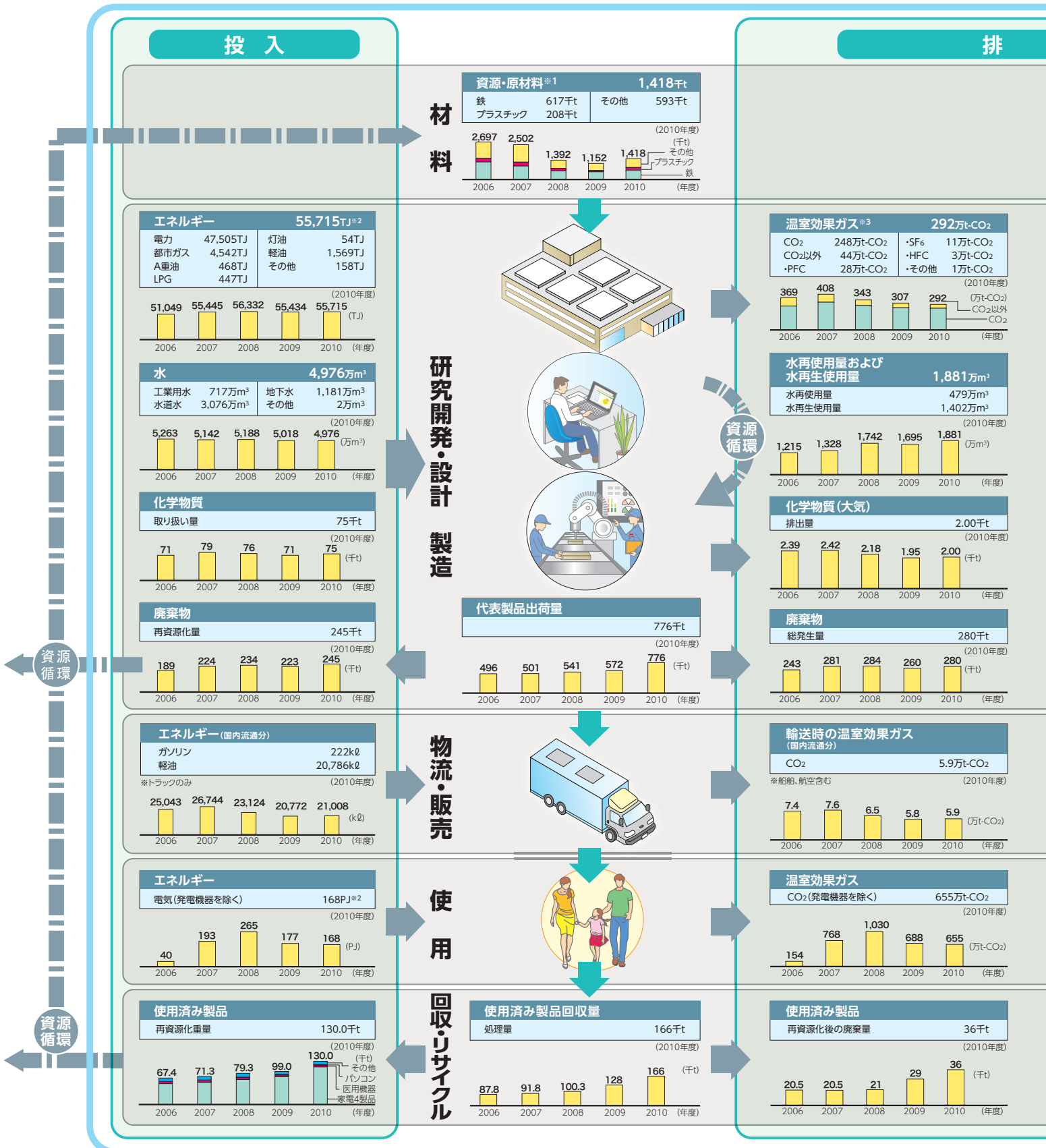


環境負荷全容



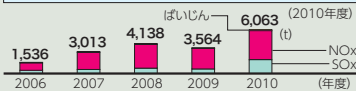
※1 投入資材については、東芝グループが独自に開発した産業連関表を利用した物質投入量推定方法("EMIoT": Estimation method for Material-inputs using Input-Output Table)を用いて算出しています。EMIoTは、産業連関表を基に作成した資源原単位により、総物質投入量を算出する手法です。資源の上流から下流へのフローに限定して産業連関分析を行い、産業部門別資源原単位をデータベース化したことに特徴があります。この手法により、資材調達部門が集計している資材分類ごとの調達金額データから、資源別投入量を算出することができ、製品直接材料だけでなく、間接材料についても集計することができます。また、従来は複合素材の調達部品やサービス事業に伴う投入資材を資源量として集計することが困難でしたが、この手法を用いることにより、これらの調達資材についても資源の種類別に投入資源量を把握することができるようになりました。

出

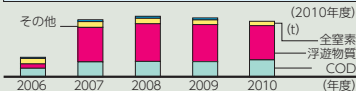
環境影響

主な取り組み

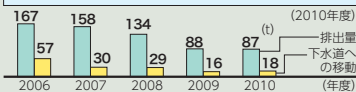
大気環境への負荷	
SOx	1,908t
NOx	4,005t
ばいじん	150t



水環境への負荷	
総排水量	4,149万m ³
BOD	310t
COD	812t
浮遊物質	1,646t
全窒素	209t



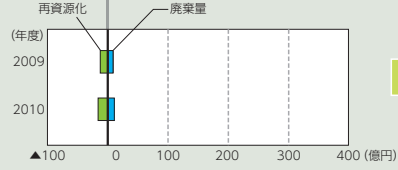
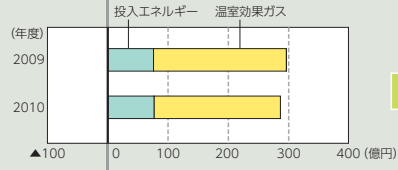
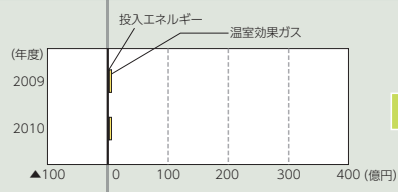
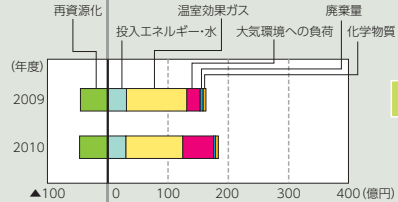
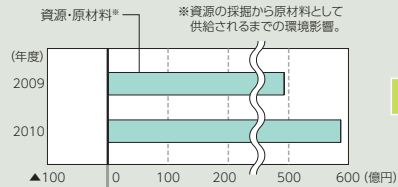
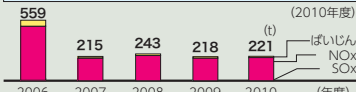
化学物質※4 (水域)	
排出量	87t
下水道への移動	18t



廃棄物	
最終処分量	8千t



輸送時の大気環境への負荷	
SOx	0.4t
NOx	209t
ばいじん	12t



- ・製品の資源有効活用
- ・グリーン調達推進

- ・エネルギー起源CO₂排出量の削減
- ・温室効果ガス排出量の削減
- ・廃棄物総発生量、最終処分量の削減
- ・水受入量の削減
- ・大気・水域への化学物質排出量の削減・管理
- ・環境リスクへの対応

- ・製品物流に伴うCO₂排出量の削減

- ・エコプロダクツによるCO₂排出抑制

- ・使用済み製品の再資源化量拡大

※2 TJ=10¹²J, PJ=10¹⁵J。J(ジュール)は仕事量、熱量、電力量を表す単位で、1J=約0.239カロリー。
 ※3 国内の電力のCO₂排出係数は、3.50t-CO₂/万kWhを用いています。
 ※4 「ふっ化水素およびその水溶性塩」は使用している「ふっ化水素」が使用後の処理により、非水溶性塩になっているため、2009年度より該当物質の水域への排出は「0」としています。